

価値見極め 心地よさ追求

企業コンサルタントが企画・選曲

異色のJポップカバー集

元野村証券の人気アナリストで、企業コンサルタントの佐藤明さん(四六)が選曲したJポップのカバー曲集「コトノハ」が静かなブームとなっている。九月に第三弾が発売されるなどシリーズ化され、細く長い支持を得ている。音楽の専門家でなく、銘柄を見極めるプロが放つアルバムとは。(山崎美穂)

佐藤さんは業界紙のアナリストランキングで何度も一位に輝いた経歴を持つ。現在は独立し企業コンサルタントと

ハワイアン調「真夏の果実」など

膨大な既存曲の中から発掘

して活躍。年に二万曲は聴くという音楽好きだ。「僕たち四十代は学生時代にテレビで『ザ・ベストテン』や『ベストヒットUSA』な

どの音楽番組を見たり、ラジオで好きな曲をエアチェックしたりしていた世代。仕事に追われて音楽から遠ざかってしまったこの世代の目をもう一度音楽に向けさせたい。この情熱が原点にある。

本業と共通部分も

「言葉が心に染み込んでくる歌詞を楽しんでほしい」との願いを「コトノハ」(言の葉)というタイトルに込め



CD3枚をプロデュースした企業コンサルタントの佐藤明さん



シリーズ化された「コトノハ」

た。既存のカバー曲約二千の中から十二曲を発掘し一枚のアルバムに収めた。選曲のポイントには「日本のスタンダード。アコースティックでリラックスできること。自分の耳で聴いて心地よいと思うこと」。

二〇〇八年に出した第一弾ではサザンオールスターズの「真夏の果実」をハワイアン歌手のサンディーが、山下達郎の「ライド・オン・タイム」をコーラスグループのスムースエースが歌う。大滝詠一の「恋するカレン」はBEGINがカバー。その他、まだ無名のアーティストも登場するが、導く演奏者、アレンジによって原曲の印象が変わり、ゆったりと時間が流れるような感覚になるのが特徴だ。「埋もれていた見逃され

「日本のスタンダードを」

ていたりする価値を見つけ、企業の価値を高めるのが僕の本業。日本にはスタンダードといえる名曲がいっぱいある。導くアーティストが歌い継ぐことでもう一度その曲に光を当て、さらに新しいアーティストの価値も高めた。本業と共通した部分はあ

権利の問題が壁に

そもそのきつかけは〇四

年、自身が出資する飲食店のBGMを担当したことだった。Jポップのカバー曲を中心に選んで流したところ評判となり、客から録音したものを売ってほしいという声が多く寄せられた。

「それなら一枚のCDにしよう」と思い立ったが、簡単にはいかない。楽曲はすべてレコード会社が異なり、権利関係のクリアがネックになる。「大手のレコード会社は最初、会ってもくれなかった。まさに門前払い。会ってくれたとしても答えはずべて「ノーでした」。音楽業界では、トップアナリストという肩書は全く通用しなかった。そんな時、一つの偶然が突破口となる。面識のあった大手芸能事務所アミューズの元社長、山本久さんに東京都内ではったり再会。すぐに相談を持ち掛けた。音楽業界で顔が広い山本さんが声をかけたことで、各レコード会社が許

諾。山本さんが取締役を務めるワイワイミュージックからの発売が決まった。

山本さんは「アーティストの人气に頼るのが当たり前の業界で、曲の魅力を中心にした佐藤さんの企画はメジャーな会社では思い付かない斬新なアイデアだった」と振り返る。

第一弾に続き、翌年に第二弾を発売。それぞれ五千枚を売り上げ、第三弾のリリースにつながった。

音楽評論家の富沢一誠さんは「(テーマに沿って複数のアーティストの曲を集める)コンピレーションアルバムで一万枚売ればヒットといわれる中、五千枚は大健闘といえる。選曲の軸がぶれていないことが受け入れられた要因では」と評価する。

第三弾は土岐麻子による「夢で逢えたら」(吉田美奈子)や、オトナモードの「風

をあつめて」(はっぴいえんど)など十一曲を収録。最後に収めた「青春の影」は既発曲ではなく、アルバムのためにオリジナル。ヒップホップユニットのBAMBOOを起用しチューリップの名曲をジャズのアレンジで聴かせる。佐藤さんもレコーディングに立ち会い、自身の思いを具現化した作品だ。「今後、オリジナルでアルバムを出せたら」と夢は膨らむ。

証券と音楽の現状は似ていると佐藤さんは言う。「大手証券会社で働くアナリストたちは注目度の高い一部の限られた銘柄だけを判断の対象とするようになった。外資系の参入で、さらに目先のことばかりに。時間軸がすごく短くなってきている。音楽業界も同様。大手は売れ筋の曲ばかりに目が向いている」。一瞬、アナリストの鋭い目になっ

現代日本百科 532

ひまわり 町田 健

試合をものにする「気持ち」

「気持ち」はある時の感情や気分のこと。「いい気持ち」「不思議な気持ち」のように、一般的な感情を表すこととは異なる。試合前に「気持ちを高める」という言い方もする。しかし「試合をものにする」という内容は、未来に起きる事象で、ある時の感情ではない。だから、これだけでは「気持ち」の内容を表すものとして使えない。「試合をものにする」という「願望」を表す表現ならば、ある時の感情の一種だから「気持ち」と一緒に使える。